

松本県ヶ丘高校3年生の小林慧拓君(17)＝松本市南浅間＝が、3年前に同校の応援団長を務めた工学院大学3年生の兄・昂暉さん(20)＝東京都＝の背中を追って、応援団長として奮闘している。同窓会などによると兄弟で

団長を務めるのは、同校92年の歴史で初めてとみられる。14日に始まった応援練習で、県陵生の思いと伝統が込められた応援歌や校歌を受け継いでもらおうと、全力で1年生と向き合っている。(片岡 望)

応援団長 兄も歩んだ道

県ヶ丘高 小林慧拓君 愛校心つなぐ

「団長をやるために県陵に入った」。中学生のころから、応援団員の兄を「かっこいい」と見続けてきた。兄が自宅に持ち帰った団長だけが身に着けられる裏地が赤い学ランや、団長としてエールを送る兄の姿を見る機会があったことで、いっそう憧れが募った。猛勉強をして受験を乗り越え、団員に立候補した。始まった応援団員の生活は想像通り厳しかった。応援を率いる立場として、10曲以上ある応援



応援団長として1年生を指導する小林君

歌は振り付けを含めて完
壁に身に付けなければな
らず、細部にまで磨きを
かけた。当初15人いた同
学年の仲間が減っていく
中、長年続いている意義

を考え、残った団員と必
死に練習に取り組んだ。
「時代錯誤」との声が寄
次期団長が指揮をする
校訓の『三大精神』(質
実剛健であれ、大道を闊
歩せよ、弱音を吐くな)
の意味が込められている
と考える。「理不尽に思
われても、厳しい応援練
習を終えて真の県陵生に
なれる。すぐに意味が分
からなくても、いずれ
『やってよかった』と思
ってくれたら」と1年生
への思いを語る。

昂暉さんは自分の背中
を追って励む弟の姿に
「やっぱりうれしい。1
年生に愛校心を持っても
らえるよう、最後までや
りきってほしい」とエー
ルを送る。小林君は「兄
の存在を追い越せたか、
自分では分からない」。
抱き続けた憧れを胸に、
伝統をつないでいく。